

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を育て、確かな学力と主体的に自己実現・社会貢献できる生徒を育む

- 1 人生を自ら切り拓いていく人間性を育み人権意識を絶えず見つめ直す生徒・教職員の育成
- 2 「認め合い、尊重し、協働していく」学びを社会に活かし、人間性を醸成できる生徒の育成
- 3 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、多様な学びの場を保障し相互理解できる生徒の育成

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と学びの深化
 - (1)「確かな学力」の育成と授業改善
 - ア エンパワメントスクールとして、「できた。わかった。やってみたい。もっとできる。」を感じる授業実践
 - (2) グローバル社会を生き抜く力の育成
 - ア 英語学習ツール等の活用や国際交流などの活動を通して、外国語教育と国際理解を深める教育の充実
 - (3) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実
 - ア 専門人材や外部機関と連携し、生徒の教育的ニーズに応じた支援の提供
 - イ 教育庁、教育センター、支援学校と連携し、他校の支援教育体制のサポートも含めた、通級指導教室の充実
 - (4) 魅力づくりと効果的な情報発信
 - ア 特色を生かした魅力ある教育活動と、効果的な情報発信の充実

【評価指標】

○学校教育自己診断（生徒の肯定的回答）

学校に行くのが楽しい	目標 70.0%以上（R 4 64.9%、R 5 59.8%、R 6 63.5%）
授業はわかりやすく楽しい	目標 70.0%以上（R 4 62.8%、R 5 58.8%、R 6 62.6%）
エンパワメントスクールに入学してよかった	目標 70.0%以上（R 4 71.1%、R 5 67.5%、R 6 68.8%）
生徒が努力したことをほめてくれる	目標 75.0%以上（R 4 67.3%、R 5 68.3%、R 6 71.3%）

2 豊かな心と健やかな体の育成

- (1) 人権・多様性を尊重する教育の推進
 - ア 障がい理解教育や支援学校との相互交流、通級指導教室の活動を核として、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進
 - イ 挨拶、遅刻、集団活動でのルールなど、生徒が公共のルールやマナーの重要性を自覚し規範意識が育まれるよう、組織的な取り組みを推進
- (2) 中途退学・不登校の未然防止
 - ア 中高連携・人間関係づくり・基礎学力の充実を三本柱として学校運営・教育相談体制を充実
- (3) 学びに向かう環境づくりの充実
 - ア 関係機関や専門家と連携した、貧困、虐待、ヤングケアラー等の生徒を取り巻く環境に応じた支援と学ぶ機会の確保
 - イ 生徒が主体的に校則の見直しや学校行事の企画などに関わる機会を拡充
- (4) 健康教育の充実
 - ア 薬物乱用防止教育、がん教育、感染症予防や健康診断受診等、健康教育と健康の保持・増進にかかる取組みを推進

【評価指標】

○学校教育自己診断（生徒の肯定的回答）

学校生活について、先生の指導は納得できる	目標 70.0%以上（R 4 63.3%、R 5 63.2%、R 6 69.0%）
学校行事（遠足・文化祭・体育祭・修学旅行など）は楽しい	目標 75.0%以上（R 4 74.9%、R 5 67.2%、R 6 70.3%）
命の大切さや社会のルールについて学んでいる	目標 75.0%以上（R 4 70.9%、R 5 69.3%、R 6 72.5%）
学校では安心して生活できる	目標 70.0%以上（R 4 63.8%、R 5 58.9%、R 6 64.1%）
いじめ等について困っていることがあれば、先生は寄り添って対応してくれる	目標 70.0%以上（R 4 67.2%、R 5 64.6%、R 6 67.6%）
担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる	目標 70.0%以上（R 4 67.9%、R 5 62.3%、R 6 67.2%）

3 将来をみすえた自主性・自立性の育成

- (1) 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進
 - ア 希望進路の実現に向け、自己の将来設計や自己実現について考えることができるよう、実践的なキャリア教育を推進
- (2) 部活動の取り組み
 - ア 「部活動大阪モデル」の効果的な活用と、ペアリング以外の学校や地域クラブ等との連携を推進

【評価指標】	
○学校教育自己診断（生徒の肯定的回答）	
将来の進路や生活について、考えることがある	目標 75.0%以上（R 4 71.1%、R 5 68.9%、R 6 70.3%）
先生の進路指導はわかりやすい	目標 70.0%以上（R 4 66.0%、R 5 65.6%、R 6 68.2%）
○進路保障	
就職（学校斡旋）希望者の進路実現率	目標 95%以上（R 4 95.4%、R 5 86.9%、R 6 100%）
進学希望者の進路実現率	目標 95%以上（R 4 94.4%、R 5 98.2%、R 6 100%）
4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり	
（1）働き方改革	
ア 教職員の意識改革と校務の効率化・見直しで長時間勤務の縮減を図りつつ、生徒との時間や授業力向上のための時間を確保	
（2）教職員の資質・能力の向上	
ア 校内外の研修等を活用して、自己の専門性の向上を図るとともに、社会の変化やニーズに対応した資質・能力を向上	
【評価指標】	
○学校教育自己診断（教員の肯定的回答）	
各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している	目標 70.0%以上（R 4 60.6%、R 5 49.6%、R 6 68.3%）
○時間外在校等時間	
月 45 時間、年間 360 時間以下	目標 100%（R 6 月 45 時間以下（87.3%）、年間 360 時間以下（68.3%））

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 6 年度値〕	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	（1）「確かな学力」の育成と授業改善	（1）エンパワメントスクールとして、「できた。わかった。やってみたい。もっとできる。」を感じる授業実践。	（1）生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」65.0%〔62.6%〕	
	（2）グローバル社会を生き抜く力の育成	（2）英語学習ツール等の活用や国際交流などの活動を通して、外国語教育と国際理解を深める教育の充実	（2） ・英語学習ツールの活用〔新規〕 ・オンライン国際交流 3 回〔3 回〕 ・海外研修 1 回〔1 回〕	
	（3）一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実	（3） ア 専門人材や外部機関と連携し、生徒の教育的ニーズに応じた支援の提供 イ 教育庁、教育センター、支援学校と連携し、他校の支援教育体制のサポートも含めた、通級指導教室の充実	（3） ア 専門人材等と連携した支援の提供 3 回〔3 回〕 イ 他校通級の体制整備 他校通級も含めた、通級で活用できるガイドブックを教育センターと連携して作成〔新規〕	
	（4）魅力づくりと効果的な情報発信	（4）特色を生かした魅力ある教育活動と、効果的な情報発信の充実	（4）・頑張った生徒奨励の機会を充実 280 人以上〔267 人〕 ・学校ブログでの情報発信 120 回以上〔141 回〕 ・講演会の講師など、外部の関係者、団体からの情報発信 5 回〔4 回〕	

府立和泉総合高等学校

2 豊かな心と健やかな体の育成	(1) 人権・多様性を尊重する教育の推進 (2) 中途退学・不登校の未然防止 (3) 学びに向かう環境づくりの充実 (4) 健康教育の充実	(1) ア 障がい理解教育や支援学校との相互交流、通級指導教室の活動を核として、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進 イ 挨拶、遅刻、集団活動でのルールなど、生徒が公共のルールやマナーの重要性を自覚し規範意識が育まれるよう、組織的な取り組みを推進 (2) 中高連携・人間関係づくり・基礎学力の充実を三本柱として学校運営・教育相談体制を充実 新入生の情報収集、在校生の情報提供等、中高連携の充実に向けた校内体制の整備 (3) ア 関係機関や専門家と連携した、貧困、虐待、ヤングケアラー等の生徒を取り巻く環境に応じた支援と学ぶ機会の確保 イ 生徒が主体的に校則の見直しや学校行事の企画などに関わる機会を拡充 (4) 薬物乱用防止教育、がん教育、感染症予防や健康診断受診等、健康教育と健康の保持・増進にかかる取り組みを推進	(1) ア 人権HRや講演会の実施 2 回 [2 回] イ 生徒向け学校教育自己診断 ・「学校生活について、先生の指導は納得できる」 70. 0% [69. 0%] ・「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」 75. 0% [72. 5%] (2) 中学校訪問と情報提供の体制整備不登校やヤングケアラー等の生徒支援に必要な情報収集と中学校への情報提供ができるよう、中高連携を進める P T の立ち上げと、中学校訪問のマニュアルを作成 [新規] (3) ア 生徒向け学校教育自己診断 ・「学校では安心して生活できる」 65. 0% [64. 1%] ・「いじめ等について困っていることがあれば、先生は寄り添って対応してくれる」 70. 0% [67. 6%] ・「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」 70. 0% [67. 2%] イ 生徒会活動を中心に、生徒が主体的に学校行事等に参画できる機会 5 回 [4 回] (4) 健康教育にかかる講演会の実施 1 回 [1 回]	
3 将来をみすえた自主性・自立性の育成	(1) 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進 (2) 部活動の取り組み	(1) 希望進路の実現に向け、自己の将来設計や自己実現について考えることができるよう、実践的なキャリア教育を推進 (2) 「部活動大阪モデル」の効果的な活用と、ペアリング以外の学校や地域クラブ等との連携を推進	(1) ・就職（学校斡旋）希望者の進路実現率 95%以上 [100%] ・進学希望者の進路実現率 95%以上 [100%] (2) 部活動大阪モデルの活用、ペアリング以外の学校や地域クラブとの連携を継続	
4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり	(1) 働き方改革	(1) 教職員の意識改革と校務の効率化・見直しで長時間勤務の縮減を図りつつ、生徒との時間や授業力向上のための時間を確保	(1) ・全校一斉退庁日の啓発・徹底 ・時間外在校等時間：月 45 時間、年間 360 時間以下 100% [月 45 時間 55 人/63 人 (87. 3%)、年間 360 時間 43 人/63 人 (68. 3%)] ・教員向け学校教育自己診断 「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」 70. 0% [68. 3%]	